同志社大学「次世代研究者」プロファイル

2022年6月現在

基本情報					
フリガナ 氏名	ワダ 和田　　マサヤ 昌也	生年	1987年		
氏名（英字）	WADA　　Masaya	メールアドレス	mawada(a)mail.doshisha.ac.jp		
学歴	2006年4月　同志社大学法学部政治学科　入学 2010年3月　同志社大学法学部政治学科　卒業 2010年4月　同志社大学大学院法学研究科政治学専攻　博士課程（前期課程）　入学 2013年3月　同志社大学大学院法学研究科政治学専攻　博士課程（前期課程）　修了 2013年4月　同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科グローバル・スタディーズ専攻 博士課程（後期課程）　入学 2015年10月-2016年6月 パリ第十大学大学院 法・政治学研究科　在学留学 2021年3月　同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科グローバル・スタディーズ専攻 博士課程（後期課程）　退学 2022年3月　同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科グローバル・スタディーズ専攻 博士号（アメリカ研究）取得				
職歴	2016年9月-2018年8月　トゥールーズ第二大学外国語学部日本語学科　講師 2021年4月-2022年3月　同志社大学フェミニスト・ジェンダー・セクシュアリティ研究センター 嘱託研究員 2021年4月-現在　同志社大学フェミニスト・ジェンダー・セクシュアリティ研究センター 兼担研究員 2022年4月-現在　同志社大学研究開発推進機構及びグローバル地域文化学部 特別任用助手（有期研究員）				
指導教員	岡野　八代　教授	取得学位	博士（アメリカ研究）	専修外国語・読解可能な外国語	英語・フランス語
研究活動					
研究分野	ハンナ・アーレント研究、現代フランス政治哲学				
科研費分類による研究分野	政治学およびその関連分野				
研究テーマ	ミゲル・アバンス―ルのラディカル・デモクラシー論				
研究概要	修士課程より、一貫してアーレント研究に従事してきたが、近年は、フランスにおけるアーレント研究の豊饒な成果に気づき、それらを摂取しながら自身のアーレント解釈の刷新を図りつつ、同時に、そのような研究成果が可能となった知的背景にも関心を抱いている。 その一環として、昨年より、後者の点に関し、最も注目すべきアーレント解釈を提示してきたミゲル・アバンス―ルの研究に着手している。特に、彼がマキャベリやマルクスの再解釈を通じて、「批判」概念を根幹に据えた「蜂起するデモクラシー」の理論的意義について、彼の著作成立史のみならず、同時代のゴーシェやルフォール、カストリアディスらとの論争の考察を通じて、明らかにすることを目指している。				
研究業績	論文（査読あり） 2020年 「ハンナ・アーレントの法概念―ノモス／レックスの二元論を超えて―」、『政治思想研究』、20号、pp. 298-328 2020年 「フランスにおけるもうひとつの政治哲学の復権のモメント―C. ルフォールの1970年代の「転回」の視座から―」、『同志社グローバル・スタディーズ』、10巻、pp.87-103 2021年 「「批判的政治哲学」という企て―現代フランス政治哲学の興隆におけるミゲル・アバンスールの位置―」、『同志社グローバル・スタディーズ』、11巻、pp.213-230 口頭発表 2019年 「ハンナ・アーレントの法概念―ノモス／レックスの二元論を超えて―」（政治思想学会第二十六回大会（於学習院大学）） 2020年 「ハンナ・アーレントの「批判」概念―「新しい政治哲学」の方法論の一考察―」（社会思想史学会第四十五回大会、オンライン開催（於東京大学）） 2022年 「フランスにおけるアーレントの受容―アロン、ルフォール、タッサンの解釈を中心に―」（政治思想史学会二十九大会（於明治大学））				
所属学会	政治思想学会、社会思想史学会				
キャリア関連					
志望進路	研究職				
進路					
自己PR	デモクラシーの機能不全が嘆かれて久しいわけですが、デモクラシーの概念もまた時代に即応しなくなっているとも言えるのではないか、そのような思いで、アーレントやルフォール、アバンスールらの議論に着目し、概念の刷新を目指しています。				
取得資格等					

※メールアドレスの（a）は＠を表しています